岡本っ子「国語」・「算数」の力と学習の様子

令和８年度全国学力・学習状況調査から（令和８年４月２３日に第６学年児童を対象に実施）

今年度は、「国語」と「算数」の学力調査が行われました。どの教科にも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。また、学習状況調査の結果についても紹介します。

国　語

＜学習指導要領の５つの内容（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」）の結果から＞



全体の正答率は全国平均と並んでおり、県平均より３ポイント低い。「思考力、判断力、表現力等」に関する問題については、「話すこと・聞くこと」の内容で全国・県平均を上回っているが、「読むこと」の内容では課題がみられました。

【良いところ】

・「情報の扱い方に関する事項」において、【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する問題では、考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができています。

・「話すこと・聞くこと」において、【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する問題では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができています。

・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、話や文章の種類とその特徴についてきちんと理解していて大変良好な結果です。

【伸ばしたいところ】

・「読むこと」において、目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題がみられました。

・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと課題がみられました。

・漢字を文の中で正しく使う問題では、「短い」という漢字はできていましたが、「不思議」という漢字の誤答がみられました。

学校では、文章と図表などの資料を読み取るとともに、それらを関連付けて読むことを通して、内容を理解したり、解釈したりする学習活動や、目的に応じて必要な情報を見つけながら読み、元の文章の構成や表現を生かしながら短くまとめる学習活動に力を入れていきます。今後も朝読書を継続し、文章に触れる時間をつくっていきます。また、新聞を教材として活用し、内容をまとめたり、討論の話題にしたりして学ぶNIEにも取り組み、新聞を読む活動も増やしていきます。

児童のみなさんは、相手や目的、自分の意図、場面や状況に応じて、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすることを意識して、これからの学習に取り組んでいきましょう。また、漢字の学習をするときは、ただ覚えるだけではなく、漢字辞典や国語辞典、タブレットを使って、漢字の成り立ちやそれを使った熟語やその意味などを調べたり、その漢字を使って文章を書いたりしましょう。

算　数



＜学習指導要領の５領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）の結果から＞

全体の正答率は県平均と並んでおり、全国平均よりわずかに高い。「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の領域で全国・県平均を上回っているが、「測定」の領域では課題がみられました。

【良いところ】

・「数と計算」において、二つの小数のどちらが５に近いかを判断するために、６．３７－５と５－３．７６を計算する問題では、正しく整数と小数の減法の計算をすることができていました。また、小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることもできていました。

・「図形」において、直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く問題では、直方体の箱の形を構成する面についての理解ができています。

・「変化と関係」において、赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ問題では、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができていました。

・「データの活用」において、日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することができていました。

【伸ばしたいところ】

・「数と計算」において、数を四捨五入して、概数で表すことに課題がみられました。また、$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く問題において、異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することに課題がみられます。

・「測定」において、昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く問題で、示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることに課題がみられました。

・「データの活用」において、二次元（前半、後半の遊びごと）の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がみられます。

学校では、くり返しの学習を計画的に実施するとともに、学習した算数の知識や技能を日常生活で活用する機会を増やし、基礎・基本の学習内容が身に付くようにしていきます。また、下学年の学習をふり返り、確実に身に付くようにしていきます。その際、誤答を含めた複数の回答を提示し、正しく解決するポイントを話し合うことで，必要な決まりや考え方を確認していくようにします。

児童のみなさんは、落ち着いて問題文を読み、正確に計算することを心がけましょう。家庭では、家族でお菓子や飲み物を分けたり、お買い物をしたりする時に、学校では、理科で実験結果を表やグラフにまとめたり、体育で記録を測ったりする時など、算数には活用できる場面がたくさんあります。いろいろな場面で、「算数ではどうなるのかな？」と考えてみるといいですね。

学習・生活の様子



質問に肯定的に答えている児童ほど学力調査の正答率が高くなる傾向が見られます。

◎は、よい傾向、▲は、心配な傾向

【家庭や地域に関すること】

◎ほとんどの児童が朝食を毎日食べており、毎日同じ時刻に寝たり起きたりできる児童の割合も高く、規則正しい生活が身に付いています。
◎ほとんどの児童が地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っており、国・県の平均と比べても高い割合です。

▲平日、休日ともに１日あたりの学習をする時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）が、国・県平均と比べて少ない傾向があります。また、学校の授業時間以外に、PC やタブレットなどの ICT 機器を学習のために使っている時間も国・県平均と比べて少ない傾向があります。学年に応じた家庭学習時間の目安を設定したり、デジタルドリルを家庭学習に取り入れたりしていきます。

【自分自身に関すること】

◎ほとんどの児童が将来の夢や目標を持っており、人の役に立つ人間になりたいと思っています。また、自分にはよいところがあると思っている児童の割合も高くなっています。
◎ほとんどの児童が、人が困っているときは進んで助けていて、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。
◎学校の授業時間以外に、読書（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）をする時間や図書室に行く頻度も国・県平均と比べて多く、本を読む習慣が身についています。

▲普段から新聞を読んでいる児童の割合が低いようです。学校の新聞コーナーの新聞を読むことで、プロが書いた記事から情報を得たり、簡潔な文章を読んだりすることができるのでよい学習習慣につながります。

【学校に関すること】

◎ほとんどの児童が、学校に行くのが楽しいと思っています。また、自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じています。
◎多くの児童が、学校で先生は、自分のよいところを認めてくれていると感じています。
◎授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる児童の割合が高くなっています。
◎分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている児童の割合が、国・県平均と比べて高い傾向があります。
◎５年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと答えた児童の割合が、国・県平均と比べて高い傾向があります。

▲国語も算数も、授業の内容はよく分かると答えた児童が多い反面、国語や算数の勉強が得意、好きと答える児童の割合が、国・県平均と比べて低い傾向があります。学校では、子どもたちの考えをていねいに見取り、学習のプロセスも含めた価値付けができるようなフィードバックをしていきます。